

企業ニュース マンダム

(東証プライム : 4917) <https://www.mandom.co.jp/>

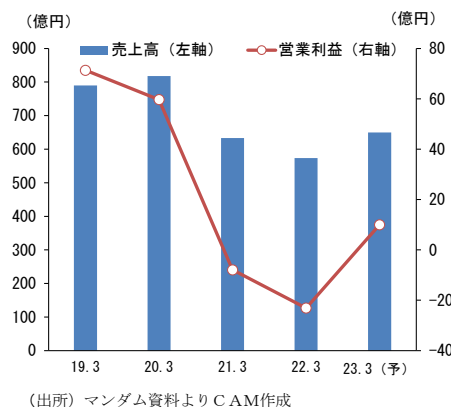
作成者: 高見澤晶子

「ギャツビー」を主力とする男性用化粧品大手

「ギャツビー」「ルシード」などのブランドを有し、ヘアスタイリング剤やスキンケア製品などを手掛ける。女性用スキンケアブランドも展開している。22. 3期の事業別売上高構成比は、男性事業58%、女性事業29%、その他13%。また、同期の国別売上高構成比は、日本57%、インドネシア20%、海外その他23%。

2021～2023年度の中期経営計画では最終年度に売上高815億円、営業利益率8%以上を目指すとし、3年をかけてコロナ禍前の水準を回復する方針。メイクやスキンケア関連の製品ラインアップ拡充や、海外EC（電子商取引）事業の強化を進めており、これらの取り組みの中長期的な業績貢献が期待される。

◇売上高と営業利益の推移



23. 3期は市場回復に伴う業績改善を見込む

22. 3期の連結業績は、売上高が574億円、前期比9%減、営業利益が23億円の赤字（前期は8億円の赤字）。2月の修正計画に対して売上高は若干の未達だが、営業利益は経費抑制により計画並みを確保した。国内外ともにコロナ禍の影響が継続、国内は夏物商材の販売が振るわなかったことも影響した。ただし第4四半期（1-3月、海外は2021年10-12月が相当）は、海外を中心に市場の持ち直しに伴う売上回復が確認できた。

23. 3期の通期会社計画は、売上高が650億円、前期比13%増、営業利益が10億円、同33億円増。コロナ禍からの経済活動回復を前提としている。国内は同8%程度の増収を想定。夏物商材の需要増、新製品効果、ヘアスタイリング製品の売上拡大を見込む。また、インドネシアと海外その他は円ベースでそれぞれ同20%程度の増収を想定。インドネシア子会社の第1四半期（2022年1-3月）実績は、現地通貨ベースで前年同期比12%増収、営業損失幅も改善しており好印象。今後、新製品効果と一部製品の値上げも業績押し上げ要因となろう。なお、営業利益計画がやや保守的に見えるが、原材料価格の高騰、生産増に伴う労務費や外注費などの増加を見込んでいる模様。

[株価動向・投資判断]

短期的には海外を中心とした業績改善、中長期では新たな取り組みによるシェアアップに期待。

<4917 マンダム 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21. 3	63,310 (▲ 23)	▲ 793 (—)	▲ 273 (—)	860 (▲ 81)	19.2	32.00
22. 3	57,361 (▲ 9)	▲ 2,308 (—)	▲ 1,856 (—)	▲ 621 (—)	▲ 13.8	36.00
23. 3 予	65,000 (▲ 13)	1,000 (—)	1,350 (—)	750 (—)	16.7	38.00



株価 (2022/5/27)	1,416 円
年初来高値 (高値日)	1,452 円 (22/1/5)
同 安値 (安値日)	1,204 円 (22/3/14)
予想 P E R (23. 3 予)	84.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,407.6 円
P B R	1.01 倍
予想配当利回り	2.68 %
(1株当たり配当金年38.00円)	
R O E (22. 3)	▲ 1.0 %
発行済み株式数	4,827 万株